

令和8年度 第1回 愛知県広域水道懇談会 議事概要

【日時】：令和8年7月24日（金） 13時30分から15時

【会場】：愛知県庁西庁舎2階 第11会議室

【委員】：出席5名（欠席1名）

【議題】

- 1 都道府県水道ビジョン、愛知県広域水道懇談会について
- 2 県内水道の現状と課題について

【懇談会の概要】

- ・愛知県の都道府県水道ビジョンの策定、愛知県広域水道懇談会の進め方について、事務局から説明を行った。
 - ・県内水道の現状と「安全、強靱、持続」の観点からの課題について、事務局から説明を行った。各委員からの主な意見は次のとおり。
-

○県内水道の現状と課題について

- ・水道は市町村経営原則があるため、各都道府県がリーダーシップを期待する場面でも、それが発揮しにくい現状にある。愛知県もそのような状況が見られると認識している。
- ・大都市でも、他の市町村と同様に、安全・強靱・持続の課題は抱えている。人材確保については、募集人員に対して採用が足りておらず、減少している。特に技術職の確保が厳しく、課題と考えている。
- ・人口減少、施設の老朽化、人材不足は愛知県共通の課題である。この状況の中で事業運営を継続するのであれば、料金改定は避けられないため、強靱・持続の課題は、県内全体の課題として捉えるべきである。
東三河の簡易水道は経営が厳しいが、愛知県がリーダーシップを発揮し、しっかり対応する必要があると考えている。
- ・水道料金について、今までやれていなかったこと、例えば耐震化等を行うようになったため、値上げをせざるを得なくなっている状況も考えられる。
- ・東三河の簡易水道は県内で料金が高く、今後職員不足への対応として人員を増やした場合、人件費の上昇によりさらなる値上げが懸念される。利用者がその費用を負担せざるを得ないため、今よりも高額な水道料金になると、人口流出による地域の消滅ということも考えられるため、非常に難しい問題である。技術力や人材を有する大都市から県内の水道をどうするべきか、知見を少しでも共有できるとよい。
- ・施設更新・耐震化、DX 推進等は、それを担う技術者がいてはじめて実現できるものであるため、人材確保や技術継承は持続だけではなく、安全・強靱にも影響があるカテゴリであると捉えている。
- ・県内水道がどのような視点で公平さがあるかということを考える必要がある。

- ・人口減少に伴う施設利用率の低下が課題として整理されていたが、今後は老朽施設の更新に加えて、将来需要を見据えた施設規模の適正化についても考えていく必要がある。特に浄水場や配水池等の基幹施設については、更新の視点のみではなく、共同利用や統廃合を含めた全体最適の視点から施設再編を検討していくことが重要だと捉える。広域連携について、上下水道の検討が愛知県で行われているが、企業庁では、県内の多くの水道事業者に水道用水を供給しており、広域的な用水供給ネットワークを有している。今後の広域連携を進めていく上で、このような既存のストックを最大限活用し、施設管理の効率化を図っていくことが重要と捉えている。
- ・施設強靱化の行く末について、人口の大きい都市である名古屋市が遅れていけば、他の市町村の皆様にも負担をかけてしまうため、そのようなことがないように先頭を走っていかねばいけないと考えている。
- ・各種アセットマネジメント計画をはじめ、危機管理マニュアルはしっかりと整備がされているが、実際に運用できるかどうかという問題もあるため、恒常的な訓練の実施や、他都市との連携において顔の見える関係性構築といった観点で、日本水道協会中部地方支部長としての立場で、関連する市町村の皆様と合同でやれる部分については、一生懸命顔の見える関係性を構築したい。
- ・経営の統合に関して、各水道事業体は、自己水源と県水という２種類があり、なおかつ歴史が違うため経費の問題で経営統合が難しく、経営統合しようとなると、平均化を行う必要があり、有利な条件の市町村が不利益を被る形で、経営の厳しいところを救済するような形で平均化を行うと、意思をまとめるのは難しいと思われる。

○愛知県の都道府県水道ビジョンへの意見

- ・DXの中で、GX、つまりグリーントランスフォーメーションについて言及をできるとよいのではないかな。
- ・50～100年先の水道の理想像を踏まえて今後10年程度の水道の理想像を定めるのであれば、20年先、40年先はどうなるかといった見通しを踏まえた上で議論する必要がある。
- ・人材確保、技術継承、上下水道の一本化の面的な広がりを含めて、実効性のある将来像を示す水道ビジョンの策定を期待している。
- ・今後、国の動向も踏まえ、愛知県としてもリーダーシップ力を強めていく考えになることが望ましい。